

自動車整備科、一級自動車工学科、 自動車整備・カーボディマスター科、 自動車整備・マスターメカニック科、 自動車整備・トータルマスター科			2026年度 授業計画		
時 期	2年前期	単 元	実 習	教科名	車両2A
科 目	自動車整備作業	教科書等 持参品			発行日
総時限	28				教科
総時間	44.8				担当
			2026年3月18日		
			難波 喜彦		
			伊丹 秀明		

1. 指導教員の実務経験

該当

非該当

自動車整備士として車両整備全般の整備の実務経験がある教員により車両部品の分解・組立・点検等について指導する。

2. 教科の目的（この学科の狙い、目的を明確に記入）
1. 実習授業で車両の取り扱い方法と注意点を学び、実際のお客さまの車両を取り扱うことへつなげる目的で行う。
2. 重量物脱着を行う場合の作業方法、そのときの注意点を学ぶために行う。
3. 共同作業の大切さを学ぶために行う。
4. 繊細な作業、大胆な作業の判断を付けるために行う。

3. 授業の到達目標（何を理解し何が出来るようになるのか）
1. お客さまの車両（実習車両）の取り扱い方法を理解する。
2. サークルチェックの意味を理解し、確実に車両のチェックが出来る。
3. 車両ごとに車両保護のカバー類の取り付けが正しく出来る。
4. 重量物脱着時、共同作業時の危険予知を常に意識させること。
5. A Tの脱着の手順を理解し、安全に正しく、確実に出来る。
6. 各種工具の取り扱い、ボルト、ナットの回し方、締付けトルクを理解し、場所に適した工具が使える。
7. 安全、確実、スピーディな作業姿勢を体感し、身に付ける。
8. 臨機応変な作業を身に付ける。
9. E S Mを活用し脱着手順、点検要領、基準値などを探せるようになる。

4. 学習評価（期末試験での主な試験項目）
・学科履修試験で評価する。学科履修試験は80分間で実施する。
○×、選択肢、記述により100点満点で評価する
・合格点：60点以上
80点以上：優 60点以上：良（一級工学科70点以上） 60点未満：不可（一級工学科70点未満）
・不合格の場合、再試験を受験し、60点以上で合格とみなす。（一級工学科70点以上）
再試験合格の場合、得点に関わらず評価は「可」とする。
・再試験不合格の場合、学校長の権限により教科判定試験を実施し、合格とみなす場合がある。

5. 準備学習

6. 学修時間と単位
本科目は、1単位あたり45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としている。
1単位の修得に必要な学修時間の目安は、30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間である。

自動車整備科、一級自動車工学科、
自動車整備・カーボディマスター科、
自動車整備・マスターメカニック科、
自動車整備・トータルマスター科

2026年度 授業計画

時 期	2年前期	単元	実習	教科名	車両2A	
7. 授業概要（時限ごとの主な授業内容）					8. 教科書、資料、備品類	
時限	主な授業内容				資料、備品類	数量
1	実習概要、安全作業について					
2～13	A班：FFオートマッチクランスアクスル脱着（B 2 1 A）					
14～25	B班：FRオートマッチクランスミッション脱着（V37）					
	技能習得確認 A班：時間内にトルクコンバータの脱着					
	車両修復 復元 ドライブシャフト脱着					
	B班：時間内にA/T脱着					
	プロペラシャフト脱着					
1	実習概要					
2	安全作業について					
	A班：FFオートマッチクランスアクスル脱着（B 2 1 A）					
3	エンジンルーム内 部品配線取り外し					
4						
5	サスペンション部品取り外し					
6						
7	ミッション取り外し					
8						
9	ミッション取り外し 取り付け					
10	サスペンション部品取り外し部品取り付け					
11	ドライブシャフト取り付け技能習得確認					
12	ドライブシャフト取り付け技能習得確認					
13	エンジンルーム内 部品配線取り付け					
14	B班：スカイラインミッション脱着、アトラスミッション脱着					
15	下回り アンダーカバー、マフラー、プロペラシャフト等部品取り外し					
16						
17	ミッション取り外し					
18						
19	コンバーター脱着技能習得確認					
20	ミッション脱着技能習得確認					
21	ミッション取り付け					
22	下回り部品取り付け					
23	オートマチックオイル充填					
24	アトラス トランスミッション取り外し、クラッチ脱着 ,トランスミッション取り付け					
25	アトラス トランスミッション取り外し、クラッチ脱着 ,トランスミッション取り付け					
26	技能習得確認 車両修復 復元					
27	技能習得確認 車両修復 復元					
28	総合復習					

自動車整備科、一級自動車工学科、 自動車整備・カーボディマスター科、 自動車整備・マスターメカニック科、 自動車整備・トータルマスター科			2026年度 授業計画		
時 期	2年前期	単 元	実 習	教科名	車両2B
科 目	自動車整備作業	教科書等 持参品			発行日
総時限	28				教科
総時間	44.8				担当
			2026年3月18日		
			難波 喜彦		
			伊丹 秀明		

1. 指導教員の実務経験
該当
非該当

自動車整備士として車両整備全般の整備の実務経験がある教員により車両部品の分解・組立・点検等について指導する。

2. 教科の目的（この学科の狙い、目的を明確に記入）

1. 電気の回路図を読み取ることができる。
2. 不具合現象の確認からその回路を特定できる。
3. 故障診断器を使用し不具合箇所の絞り込みができる。
4. 測定結果から不具合部位の特定ができる。
5. 安全にドアレギュレーターの脱着ができる。

3. 授業の到達目標（何を理解し何ができるようになるのか）

1. お客さまの車両（実習車両）の取り扱い方法を理解する。
2. テスターを正確に使いこなすことができる。
3. 電気回路図から電気の流れを読み取る。
4. 不具合現象から正常時の電気の流れを読み取り各点の正常電圧が分かる。
5. 測定結果から不具合部分を特定できる。
6. 故障診断器を使用し、データモニタ・アクティブテストを実施系統を判断できるようになる。
7. ドアレギュレータ・ドアガラスを安全に取り外すことができる。
8. 確実にドアレギュレータを取り付け、作動確認ができる。

4. 学習評価（期末試験での主な試験項目）

- ・学科履修試験で評価する。学科履修試験は80分間で実施する。
○×、選択肢、記述により100点満点で評価する
- ・合格点：60点以上
80点以上：優 60点以上：良（一級工学科70点以上） 60点未満：不可（一級工学科70点未満）
- ・不合格の場合、再試験を受験し、60点以上で合格とみなす。（一級工学科70点以上）
再試験合格の場合、得点に関わらず評価は「可」とする。
- ・再試験不合格の場合、学校長の権限により教科判定試験を実施し、合格とみなす場合がある。

5. 準備学習

電気配線の色、カプラーのオス、メスなど1年で習ったことを見直しをする。

6. 学修時間と単位

本科目は、1単位あたり45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としている。
1単位の修得に必要な学修時間の目安は、30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間である。

自動車整備科、一級自動車工学科、
自動車整備・カーボディマスター科、
自動車整備・マスターメカニック科、
自動車整備・トータルマスター科

2026年度 授業計画

時 期	2年前期	単元	実習	教科名	車両2B	
7. 授業概要（時限ごとの主な授業内容）					8. 教科書、資料、備品類	
時限	主な授業内容				資料、備品類	数量
1	授業概要説明				ジューク（F15）	
2	A班：E13 ドアレギュレータ脱着練習				ノート（E13）	5
3					養生テープ	適量
4					作業台	10
5					パーツキャディー	10
6	B班：F15 ドアレギュレータ脱着練習				ウエス	適量
7					フェンダーカバー	10台分
8					グリルカバー	10台分
9					足マット	10台分
10	A班：E13ヘッドライトシステム概要、電気の流れを回路図を用いて確認				ハンドルカバー	10台分
11	車両を用いて正常電圧の測定				シートカバー	10台分
12					ESM（PC）	3台
13	修理書を用いた故障診断の実施方法にての実施				故障診断器（コンサルト）	5台
14					電導師	10台分
15	故障診断器を使用しての絞り込み作業の実施方法（アクティブテスト・データモニタ）					
16	ヘッドライト故障診断（練習）					
17	ヘッドライト故障診断 技能習得確認					
18	ヘッドライト故障診断 技能習得確認					
19	B班：F15PWシステム概要、フェイルセーフ、の確認、電気の流れを回路図を用いて確認					
20	メインSW入出力値の測定					
21						
22	エンコーダについて理解する、車両を用いて正常電圧の測定					
23	パワーウィンドウ故障診断（練習）					
24						
25						
26	パワーウィンドウ故障診断 技能習得確認					
27	パワーウィンドウ故障診断 技能習得確認					
28	総合復習					

※ 期末試験は授業時間に含まない

自動車整備科、一級自動車工学科、 自動車整備・カーボディマスター科、 自動車整備・マスターメカニック科、 自動車整備・トータルマスター科			2026年度 授業計画		
時 期	2年後期	単 元	実 習	教科名	車両2C
科 目	自動車検査作業	教科書等 持参品			発行日
総時限	33				2026年3月18日
総時間	52.8				
				教科 担当	難波 喜彦 伊丹 秀明

1. 指導教員の実務経験

該当
非該当

自動車整備士として車両整備全般の整備の実務経験がある教員により車両部品の分解・組立・点検等について指導する。

2. 教科の目的（この学科の狙い、目的を明確に記入）

- ・実習授業で車両の取り扱い方法と注意点を学び、実際のお客さまの車両を取り扱うことへつなげる目的で行う。
- ・法定2年点検を理解し実施できる。
- ・正しく記録簿が記入できる。
- ・検査ラインが使用できるようにする。

3. 授業の到達目標（何を理解し何が出来るようになるのか）

- ・お客さまの車両（実習車両）の取り扱い方法を理解する。
- ・サークルチェックの意味を理解し、確実に車両のチェックができる。
- ・車両ごとに車両保護のカバー類の取り付けが正しくできる。
- ・法定2年点検ができる。
- ・各種工具の取り扱い、ボルト、ナットの回し方、締付けトルクを理解し、場所に適した工具が使える。
- ・安全、確実、スピーディな作業姿勢を体感し、身に付ける。
- ・検査機器を取り扱えるようになる。

4. 学習評価（期末試験での主な試験項目）

- ・学科履修試験で評価する。学科履修試験は80分間で実施する。
○×、選択肢、記述により100点満点で評価する
- ・合格点：60点以上
80点以上：優 60点以上：良（一級工学科70点以上） 60点未満：不可（一級工学科70点未満）
- ・不合格の場合、再試験を受験し、60点以上で合格とみなす。（一級工学科70点以上）
再試験合格の場合、得点に関わらず評価は「可」とする。
- ・再試験不合格の場合、学校長の権限により教科判定試験を実施し、合格とみなす場合がある。

5. 準備学習

- ・定期点検整備要領書を確認し、1 2ヶ月点検の項目を復習しておくこと

6. 学修時間と単位

本科目は、1単位あたり45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としている。

1単位の修得に必要な学修時間の目安は、30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間である。

自動車整備科、一級自動車工学科、
自動車整備・カーボディマスター科、
自動車整備・マスターメカニック科、
自動車整備・トータルマスター科

2026年度 授業計画

時 期	2年後期	単元	実習	教科名	車両2C	
7. 授業概要（時限ごとの主な授業内容）					8. 教科書、資料、備品類	
時限	主な授業内容				資料、備品類	数量
1	概要 安全作業についてなど				シルフィ（B17）	10
2	エンジンルーム概要				作業台	15
3	エンジンルーム点検				パーツキャディー	15
4	エンジンルーム点検				ウエス	適量
5	エンジンルーム点検				ペーパーウエス	適量
6	エンジンルーム点検				クロスレンチ	10
7	エンジンルーム技能習得確認				エアインパクトレンチ	10
8	エンジンルーム技能習得確認				プレート型トルクレンチ（230F）	10
9	足回りの概要				プレート型トルクレンチ（920F）	10
10	足回り点検				プリセット型トルクレンチ（1800QL）	10
11	足回り点検				フェンダーカバー	10台分
12	足回り点検				グリルカバー	10台分
13	足回り点検				足マット	10台分
14	足回り点検				ハンドルカバー	10台分
15	足回り技能習得確認				シートカバー	10台分
16	足回り技能習得確認				ソケット（21）	10
17	下回り概要				サークルチェックシート	学生分
18	下回り点検 検査ライン				リフトアタッチメント	10台分
19	下回り点検 検査ライン				ソケット（30）	10
20	下回り点検 検査ライン				ラチェット	10
21	記録簿の記入説明				ハブロックナットレンチ	10
22	下回り技能習得確認				整備記録簿	学生分
23	下回り技能習得確認				タイミングライト	10
24	下回り技能習得確認				プッシュブルゲージ	5
25	室内、エンジン始動の概要				バネばかり	5
26	室内、エンジン始動の点検				ブレーキ踏力計 50kgf	1
27	室内、エンジン始動の点検				CO, HCテスト	1
28	室内、エンジン始動技能習得確認				タイヤゲージ	10
29	室内、エンジン始動技能習得確認				車両1D オンデマンド動画	
30	室内、エンジン始動技能習得確認					
31	2年点検通し練習					
32	2年点検通し練習					
33	総合復習					

※ 期末試験は授業時間に含まない

自動車整備科、一級自動車工学科、 自動車整備・カーボディマスター科、 自動車整備・マスターメカニック科、 自動車整備・トータルマスター科			2026年度 授業計画			
時 期	2年後期	単 元	実 習	教科名	車両2D	
科 目	自動車整備作業	教科書等 持参品	日産 T S 3 級	お客様対応テキスト	発行日	2026年3月18日
			日産 T S 4 級	お客様対応テキスト		
総時限	31				教科	難波 喜彦
総時間	49.6				担当	伊丹 秀明

1. 指導教員の実務経験

該当

非該当

自動車整備士として車両整備全般の整備の実務経験がある教員により車両部品の分解・組立・点検等について指導する。
自動車整備士として電気装置整備の実務経験がある教員により電装品の構造・作動について指導する。

2. 教科の目的（この学科の狙い、目的を明確に記入）

1. 実習授業で車両の取り扱い方法と注意点を学び、実際のお客さまの車両を取り扱うことへつなげる目的で行う。
2. 共同作業の大切さを学ぶために行う。
3. 繊細な作業、大胆な作業の判断を付けるために行う。
4. 点検作業に付帯する、定期点検部品の交換作業ができる。
5. サーキットテストを用いて正確に測定ができるようになる。

3. 授業の到達目標（何を理解し何が出来るようになるのか）

1. お客さまの車両（実習車両）の取り扱い方法を理解する。
2. 撥水コーティング、ホイールコーティングが出来るようになる。
3. 各種工具の取り扱い、ボルト、ナットの回し方、締付けトルクを理解し、場所に適した工具が使える。
4. 安全、確実、スピーディな作業姿勢を体感し、身に付ける。
5. 点検作業に付帯する、定期点検部品の交換作業ができるようになる。
6. 配線図をしっかりと読み、テスターを使用して正確に測定することができる。

4. 学習評価（期末試験での主な試験項目）

- ・学科履修試験で評価する。学科履修試験は80分間で実施する。
○×、選択肢、記述により100点満点で評価する
- ・合格点：60点以上
80点以上：優 60点以上：良（一級工学科70点以上） 60点未満：不可（一級工学科70点未満）
- ・不合格の場合、再試験を受験し、60点以上で合格とみなす。（一級工学科70点以上）
再試験合格の場合、得点に関わらず評価は「可」とする。
- ・再試験不合格の場合、学校長の権限により教科判定試験を実施し、合格とみなす場合がある。

5. 準備学習

記録簿の書き方の復習をしておくこと
配線図の見方、サーキットテストの使用方法を復習しておくこと

6. 学修時間と単位

本科目は、1単位あたり45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としている。
1単位の修得に必要な学修時間の目安は、30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間である。

自動車整備科、一級自動車工学科、
自動車整備・カーボディマスター科、
自動車整備・マスターメカニック科、
自動車整備・トータルマスター科

2026年度 授業計画

[illegible]

※ 期末試験は授業時間に含まない